

## 辺野古基地建設差し止め棄却最高裁判決に強く抗議する

辺野古の米軍基地建設を巡り県の上告を棄却した最高裁の判決は、歴代の自民党政権による県民の民意も地方自治も無視した基地押し付けを容認する不当判決です。そもそも沖縄県民は2011年知事選で辺野古埋め立て容認をした仲井真知事に対し辺野古基地阻止を掲げた翁長雄志知事を誕生させました。その後一貫して辺野古基地建設反対の意思を貫いています。まさに基地建設反対は県民の総意です。

福井県革新懇は辺野古における米軍基地建設に強く反対します。最高裁判決における差し止め棄却は沖縄県民の声を無視し、地域の環境、平和、民意を軽視するものです。沖縄県民の辺野古建設反対は明白です。地元の住民投票や各種選挙、抗議行動などを通じて基地建設反対の意思は示されてきました。今回の最高裁判決は政府の方針を「忖度した判決」と言わざるを得ません。

辺野古基地建設は美しい自然環境に深刻な影響を及ぼすでしょう。海洋生態系や文化的財産も危機にさらされることは明白です。

沖縄は先の大戦で国内唯一地上戦の戦禍を浴び、県民4人に一人が犠牲になった県であり、今なお日本に配置されている米軍基地の7割が押し付けられています。新たな基地は、地域の平和と安定に対する更なる脅威となるでしょう

私たち福井県革新懇は、この度の最高裁判決に厳しく抗議するとともに、今後も沖縄辺野古基地建設に強く反対し、日本の平和・民主・革新の日本を目指し沖縄県民とともに戦い続けます。

**2023年9月5日 平和・民主・革新の日本を目指す福井の会**